

琉球大学学術リポジトリ

沖縄関係 沖縄返還協定調印式(2) (総理挨拶、談話、外務大臣挨拶)

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: 出版者: 公開日: 2019-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/43564 |

屋良行政
主席談話

秘
発表まで

行政主席談話
(協定調印後発表予定のものを復帰準備委員会代表部
が入手し電話連絡越したもの。)

昭和46 6/7
アメリカ局北米第一課

私は、沖縄返還協定の調印式を県民の皆さんと
ともにテレビを通し厳粛な気持で見守りました。
私は苦難にみちた戦後20数年の歩みを省み、さ
らに郷土沖縄の歴史に思いをよせ、まことに感深
いものがあります。終戦以来祖国に帰る日のある
ことを固く信じ、あらゆる困難をのりこえてひた
すらに祖国復帰を要求し続けてきた100万県民
の悲願並びに1億国民の民族的宿願が遂に達成さ
れるのであります。復帰までにはなお日米双方に
おける国会の審議、さらに批准の手續などが残つ
ていますが、国内的措置は別として、返還の内容
はこの協定でほとんど決つたわけであり、私は
返還交渉は相手のあることでもあり、県民並び
にわが国の要求がかならずしも全部満たされるも
のではないことを理解し、また佐藤総理大臣、愛
知外務大臣をはじめ関係者の皆さんの御苦心と御

努力についてもこれを多とし、敬意を表するもの
であります。しかしながら、県民の立場からみた
場合、私は協定の内容には満足するものではありません。
平和条約第3条に基づき施政権が米國に
委ねられたことにより、沖縄には米國の恣意のま
まに膨大、かつ、特殊な軍事基地が建設され、県
民はたえずその不安にさらされてきました。私は
沖縄復帰するに当つては、この基地にまつわる不
安が解消されることを念願し、直ちにそれが全面
的にはかなえられないにしても、基地の態ようが
變つて県民の不安を大巾に軽減することを強く求
めて参りました。ところがこの協定は「沖縄にあ
る米軍が重要な役割を果していることを認め、」
1969年11月21日の日米共同声明を基礎に
返還を^施実現することをうたつております。「本土
並み」といつても^{フハ}航空基地、与儀ガソリン貯
蔵地、フィールエリア、モトブ飛行場、その他一
部が帰されるだけで、嘉手納空軍基地、海兵隊基
地^{スケラ}、陸軍施設第2兵站部、那覇軍港、宜
野湾・読谷飛行場等をはじめ主要基地はほとんど
そのまま残り、~~●●●~~さらにSR71や第7心理
作戦部隊等本土にはない特殊部隊も撤去されず、

暫定とはいえV O Aも存在するなど

県民の切実な要望が反映されておりません。私は基地の形式的な本土並みには不満を表明せざるを得ません。私は今後とも県民世論を背景にして基地の整理縮小を要求し続けます。核抜きについてはかなり明らかにはなつたものの間接的表現に止まり明確な保障はなく、不安を残しております。対米請求権についても、復元補償につき米國が恩恵的支払いをする等の態はあらかじめ放棄されてしまいました。これについては國が責任をもつて補償する旨明確にすることを要請します。資産引継ぎも有償となり、それらはもともと県民に帰属すべきもので無償であるべきものとする県民の要求には沿っておりません。復帰の日が未確定のまま残されたことも県民の心を不安定にし準備に支障をきたすものであり、早急に確定するよう要望します。以上申し上げましたように協定の内容に県民の切なる要望には程遠い面のあることは遺憾であります。しかし、いずれにしても返還協定は調印されたのであります。

正に歴史的瞬間であります。私は去る大戦において祖国の勝利を信じつつ散華された幾多の英靈に対しこのことをつつしんで御報告申し上げ、ここに至るまでの100万県民の御労苦を謝し佐藤総理大臣、愛知外務大臣をはじめ関係者の皆さんの御努力に敬意を表し、更にこれまで沖縄について先づ關心を寄せ、御支援・御配慮をたまわりました1億同胞の御厚情を深く感謝し今後共沖縄のためにお力をかしていただくようお願い申し上げる所でございます。いよいよ^{全親の}復帰が目前に近づいたのであります。しかしながら、反面なお幾多の困難な問題もあり、県民には不安もあり心配もあります。これは新生沖縄の陣痛とも申すべきものであり、私は県民各位が決意を新たにし苦難にも耐えて、必らずやそれを乗り切つていかれるものと確信しております。この歴史的な大転換期にあたり私達はお互い並びに子々孫々の歴史と運命を開拓してゆく決意を固め、思想・心情又は立場の相異を超越して、100万県民の英智と総力を結集し、

真に平和で豊かな新生沖縄の建設に努力することを誓うものであります。

昭和46年6月17日

琉球政府行政

主席 屋良朝苗